平成15年度における事業の概況

概況

昨年の日本経済は、イラク戦争や新型肺炎SARS（サーズ）などの影響から、前半は輸出が減速し、経済の先行きに一層の不透明感を加速させましたが、後半は米国景気の回復や中国の高成長などを背景に輸出が伸び、同時に設備投資の回復と相まって回復基調となり、徐々にそのテンポを高めました。しかしながら、北海道経済は依然低迷が続くなど回復期待は大都市圏で先行し、地方にまで浸透していないのが現状であります。

管内の業況におきましても、雇用情勢の低迷が続いているほか、企業の業績悪化を反映し景況感も幾分後退するなど、依然として厳しい状況が続きました。

金融面では、リレーションシップバンキングのアクションプログラムがスタートし、その着実な実行が義務付けられました。地域の再生を軸とした中小企業金融の再生と健全性確保、収益性の向上に向けた集中的な取組みにより、金融システムの一段の信頼回復を求められております。

業績

このような環境の中においても当金庫は「この地域（まち）を愛し、豊かな未来（あす）を創造します」を経営理念に、一貫して地域社会の繁栄を目指し、中小企業の支援育成や地域住民の生活向上に努力いたしております。

あらゆるリストラ策を講じつつ、懸命に経営改善に努力し、頑張っている地元企業の方々を応援するため、無担保で第三者保証の無い融資、経営改善支援資金（アシスト）の取扱いも開始いたしました。また、資金面だけでなく色々な側面からも支援を行うため、「企業支援グループ」を一層充実させ、アドバイザーとしての活動も積極的に行っております。

一方、個人のお客様向け主力商品である住宅ローンをより利用しやすいものに改め、一層の充実を図ったことにより、取扱量も大きく増加いたしました。

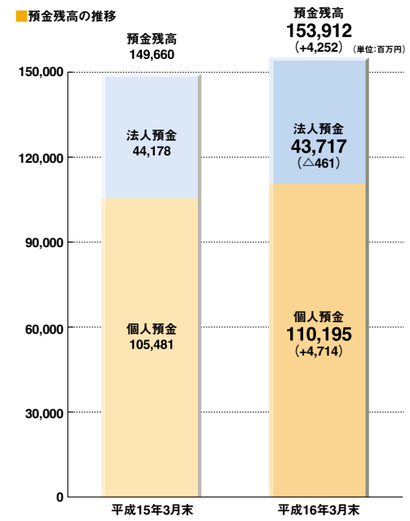
機能面では、全道の信用金庫に先駆けて機械で印影を読取る印鑑照合システムを導入し、お客様の預金の保護とリスク管理の向上を図りました。

その結果、次の業績を収めることができました。

KUSHIRO 2004
SHINKIN

預　金

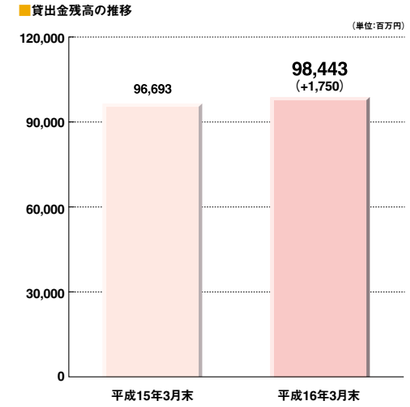
信用のバロメータとも言える個人預金が今期も順調に増加しました結果、期末預金残高は前期と比べ42億52百万円増加し、1,539億12百万円となりました。増加率2.8%は道内信用金庫の中でもトップクラスの伸び率となりました。



貸出金

地域経済は依然として低迷し、厳しい状況が続きましたが、新規先の開拓や住宅ローンなど個人向け融資を積極的に推進した結果、期末貸出金残高は前期と比べ17億50百万円増加し、984億43百万円となりました。増加率1.8%は預金と同様、道内信用金庫平均を上回る伸び率となりました。

また、預金に対する貸出金の比率は、64.0%と依然道内信用金庫の中でもトップクラスの高い比率で、地域でお預けいただいた資金を融資として地域に還元いたしております。



損　益

市場金利の低下を受けて運用利回りが低下し、金融機関の収益環境は厳しくなってきておりますが、徹底した内部経費の節減・効率化の推進と資産内容の改善を図るため積極的な姿勢で不良債権処理5億30百万円を実施した結果、業務純益5億93百万円、当期純利益は、2億30百万円を計上することができました。

事業の展望及び当金庫が対処すべき課題

平成16年度の地域経済は、住宅着工などの一部に底入れの兆しが窺われ始め、また雇用情勢の悪化には歯止めがかかりつつあるものの、依然として個人消費や観光面などが全体として低調であることから、景気の回復にはまだ時間がかかることが予想されます。

こうした状況の中で、当金庫は「リレーションシップバンキングの機能強化計画」及び中間年度を迎えた中期経営計画「チャレンジ21・3ヵ年計画」に基づき、地域社会の再生と活性化を目指すとともに、収益力の強化、人材の育成などを重点課題に役職員一同協力して取り組んでまいる所存でございます。